



あゆみだより

令和8年度第12号
令和8年9月1日発行
沼津市立沼津高等学校・中部部



長い夏休みが終わり、今日から9月です。暦の上では「秋」真っ盛りで、赤トンボが飛び交う姿も見られるようになってきましたが、まだまだ酷暑は続きそうですね。さて、夏休み中、校外とつながる活動・イベントが多くありました。中・高それぞれの「1日体験入学」と、中学校への学習支援・探究支援。そして大学との連携です。生徒がキラキラ大活躍してくれました。



【中部部・高校】1日体験入学（7月31日）



中

生徒会が中心となって企画・運営しました。全体会では、落ち着いた学校生活、個性豊かな生徒たち、部活動に一生懸命取り組める環境、中高合同で行う鷹峯祭…などなど、本校ならではのよさを説明。クイズ大会や美術部によるスタンプラリーなど、小学生が楽しめる工夫も。バトン部の演技披露では会場全体が湧きました。

生徒会は全体会の運営を担い、各教室へリモート配信。各教室では有志STAFF計66人がスタンバイし、座談会のファシリテートや施設案内などを行いました。座談会は、日頃の「シニアティーチャー」のノウハウを生かして、今年は6人程度の中生に対して有志STAFF1人が付き、身近な声が届けやすいようにしました。



高

次は、高校でとったアンケートからの抜粋です。中学生・保護者の双方から、本校生徒の挨拶、対応、説明の質の高さについて多くの称賛をいただきました。生徒たちの明るさ、丁寧さ、主体性、そして相手に寄り添う姿勢は、「市沼らしさ」を体現するものです。来校者の皆様が「安心して通わせられる学校」「この学校に入りたい」と感じてくださった背景には、本校生徒一人ひとりの誠実な振る舞いがあります。

中学生の声

①生徒の説明に対する圧倒的評価

最も多かった声は、在校生の説明の質の高さ。中学生は、リアルさと親しみやすさを強く感じてくれました。

質問にも丁寧に答えていただき、とてもわかりやすかったです！！

説明してくれた先輩がとてもおもしろく分かりやすくてたのしかったです

第二希望が第一に変わった

生徒から直接学校のことを聞くことで、入った人にしか分からない話を沢山聞くことができて実感が湧いた

高校生の説明がすごくわかりやすかった

わかりやすい説明と案内のおかげで、沼津市立沼津高等学校へ興味を持つことができました

丁寧にフレンドリーに教えてくれたのでわかりやすかったし、参考になった

②生徒の案内・対応が好印象

施設案内や座談会での生徒の接し方は、中学生にとって安心感と憧れにつながっています。

先輩がとても優しく色々聞けてよかったです

生徒さんの対応がとても優しく、丁寧に分かりやすかったです

高校生が熱心に教えてくれて助かった

高校生がすごく明るくて、話しかけやすかったです

案内をしてくださった先輩が明るい方で楽しく回れました

生徒の方々が優しく接してくれて楽しかったです

校内の人もほんとに優しく活気に満ち溢れてるなって思いました！！

高校生の説明が分かりやすくて、沼津市立のイメージがすごく変わって入学を考える理由が増えました！！

保護者の声

①生徒の挨拶・対応の素晴らしさ

玄関、教室、廊下など、あらゆる場面での生徒の姿勢が高く評価されています。

玄関から校内まで、生徒の挨拶がとても気持ち良かったです

暑い中でも学生の皆さんが丁寧に对应してくださり、学生の質の高さと、学校の指導の行き届いた様子が伝わってきました

生徒さん達のスムーズな受付案内がとても助かりました。挨拶もしっかりしていて気持ちが良かったです

一緒に回っていただいた生徒さんが気さくで子どもたちが楽しく見学できました

廊下ですれ違った時、部活動見学の時など、生徒の方から積極的な挨拶や声掛けが良かった

普段から中部部の子と関わりがあるからか、中学生への接し方が自然で、質問などしやすいそうでした

②生徒による説明・座談会の分かりやすさ

在校生が主体となって行った説明や座談会は、非常に高い評価を得ています。

とても学校の雰囲気や生徒の様子がわかりました

校内案内、座談会の高校生がとても楽しく学校の事、進路の事、質問に答えてくださり…迷っていた子供も行きたくなった

説明が生きた声で良かったです

担当してくれた高校生がすごく楽しくてプレゼン力が素晴らしいかったです

生徒さんに任せていて、学校の雰囲気やリアルな声が聞けて良かったです

皆さんのびのびと、ハキハキとされていて、分かりやすく、素晴らしいかったです

在校生たちが誘導したり説明したりして生徒主導で頑張っているなど感じました

【高校】金岡中学校学習支援ボランティア（7月29,30,31日）

毎年恒例となりました、金岡中版シニアティーチャー。今年は3日間でのべ116人の高校生が参加しました。高校生にとっての学びとは？－振り返りから探ってみます。

① 他者理解を通じて自分の学びが深まる（メタ認知）

高校生は口をそろえて「教えることは難しい」と言っています。その“難しさ”は、単なる苦勞ではなく、自分の理解を再点検し、言語化し、構造化する力が伸びた証拠です。

「自分はわかっていても、どう伝えるかが難しかった」「相手が何につまずいているのかを把握する必要があった」「説明することで自分の理解も深まった」

これはまさに 学びの最上位スキル＝メタ認知です。「わかる」を「説明できる」に変換する過程で自分の学びを再構築しています。高校生が“教える側”に立つことで、学習者としての自分を客観視できるようになったことは大きな成長ですね。

② 相手に合わせて伝え方を調整する（コミュニケーション）

多くの生徒が「距離感」「声のかけ方」「優しく伝える難しさ」を挙げています。これは単なる学習支援ではなく、対人理解・関係構築の学びです。

「怖がられないように明るく話した」「中学生が緊張していたので図を使った」「態度の悪い子にも向き合う先生の寛容さを知った」「その人に合った距離感を掴めた」

高校生が“相手に合わせて伝え方を変える”という経験は、学力よりもむしろ 社会性・協働性の成長としていみがあります。これは将来どんな職業に進んでも必要になる力であり、今回の活動はその基礎を実体験として育てていることになります。

③ “できた”を共有する喜びが自己効力感を高める（自己成長）

「できた！と言ってくれた」「わかりやすいと言われた」この経験は高校生にとって自己効力感（自分はできるという感覚）を強く育てます。

「自信につながった」「勉強はわかると楽しいことを思い出した」「自分でも分かりやすく教えられると初めて知った」「教え甲斐があった」「中学の内容を振り返ることで基礎が固まった」「自分の成長を感じた」

という声も多いです。この活動は、他者の学びを支援することで、自分自身の学びへの意欲を再点火する装置になっています。



【中等部】東都大学との「中大連携」イベント（8月25日）

7月、東都大学と本校中等部が連携協定を締結しました。中等部生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学教育の求める学生像及び教育内容への理解を深め、かつ中等教育・高等教育の活性化を行うことを目的とするものです。当日は中等部生5人が沼津キャンパス（沼津ヒューマンケア学部看護学科）を訪れました。プチ看護体験、看護師の仕事についての講義、大学生との座談会など、有意義な時間でした。



今までなんとなく夢を持っていただけだったけれど、将来のことについて実感が湧いたので、今回のことを生かして、あゆみマップにつなげていきたい。

（Kさん）

看護師は病院だけではないということがわかったり、大学とはこういうことをやっているんだなと思った。より、看護師がいいなと思った。（Sさん）

医療系の職業は看護師と医師しかいないと思っていたので、ほかにもたくさんあると知れてよかったです。プチ看護体験をしてみて、赤ちゃんの抱っこをする時の手順などを知れてよかったです。在学生と交流をして、看護の大学がどんな感じなのか分かりました。今日、ここに来て体験して本当によかったです。（Tさん）

今日の講義を通して、将来の選択の中に看護師というものがあると知ることができた。もし、今回のようなイベントがあれば参加したい。在学生との交流もあり話せなかったので、今度はいろいろな質問を用意したい。（Kさん）

自分の夢に向かって、今日のように積極的に取り組んでいきたいと思いました。今日の講義を受けて、夢について考えてみたいという思いが強くなりました。そして、5教科、「何か意味あるのかな」と思っていましたが無駄ではないと大学生からお話いただいて、頑張っていこうという気持ちになりました。楽しかったです。（Yさん）